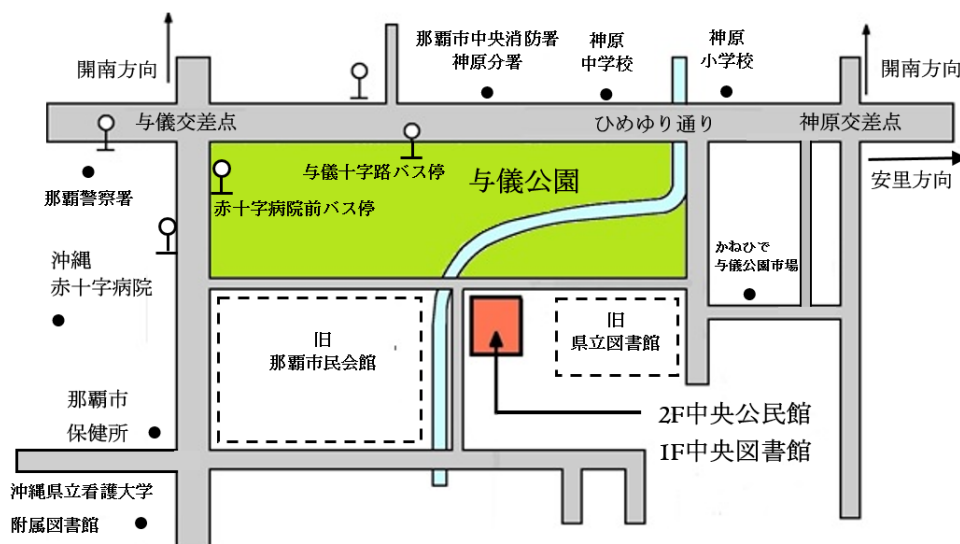


中央公民館



〒902-0064 那覇市寄宮 1-2-15

TEL 917-3442 FAX 835-4707

(URL)

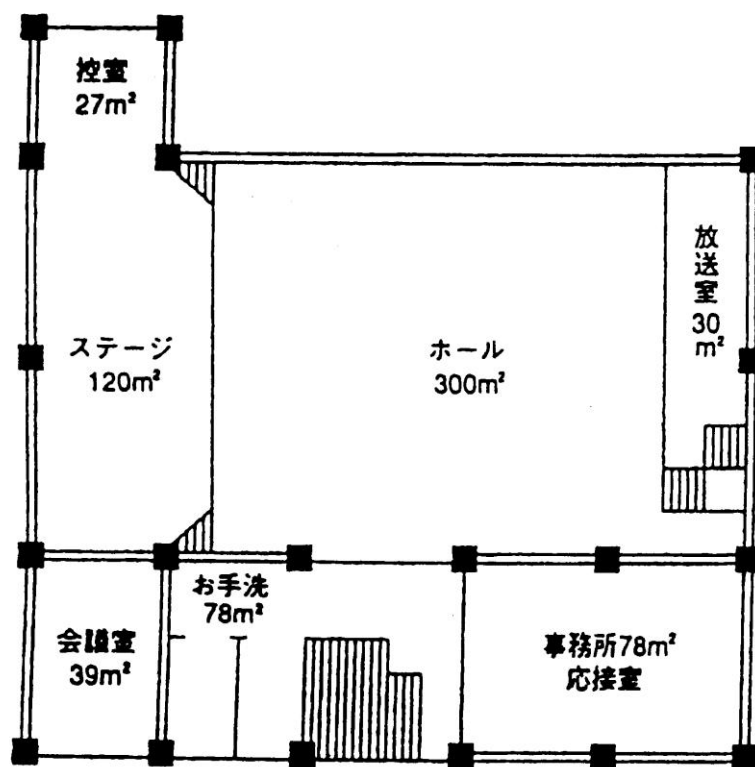
<https://www.city.naha.okinawa.jp/shisetsu/facilities/1007441/1004748.html>



中央公民館 HP

利用施設のご案内

〈中央公民館平面図〉（2階）



部 屋 名	収 容 人 数	用 途 (備 品)
ホ ー ル	300 人程度	学習会・研修会・講演会・発表会・展示会等 (ピアノ・スクリーン・テーブル・イス・移動黒板)
会 議 室	15 人程度	学習会・研修会・会議等 (テーブル・イス・黒板)

I 中央公民館の沿革

昭和50年 7月11日	那覇市公民館条例が公布された。 (当条例は昭和50年 8月 1日から施行)
8月 1日	那覇市中央公民館が設置された。 (当施設は米国民政府が「那覇琉米文化会館」として、昭和44年 7月に建設し、文化活動の場として市民へ利用されてきたが、本土復帰と同時に日本政府に譲渡された。その後、昭和48年 6月22日に那覇市へ譲渡され、那覇市企画部の所管のもとに那覇市文化センターとして活用されてきた。昭和50年 8月 1日に教育委員会に移管され、1階に那覇市立図書館と那覇市立視聴覚ライブラリーが、2階に那覇市中央公民館がそれぞれ設置された。) 館長(兼務) 山元芙美子、主査 与儀喜常、主事 佐久本全が発令された。 社会教育指導員 伊良波長正、国吉千代子が配置された。 那覇市中央公民館の開館式が挙行された。
10月 1日	那覇市公民館運営審議会委員10人が委嘱された。(以後 2年毎に改選)
10月 7日	市民講座が開始された。
11月 7日	第1回那覇市公民館運営審議会が開かれ、会長に安里盛吉氏、副会長に富名腰朝氏が選任された。
12月 6日	沖縄県公民館大会が那覇市で開催された。
昭和51年 5月30日	放送機材が中央公民館に整備された。
8月20日	館長 山元芙美子が辞職し、新たに館長(兼) 金城幸明が発令された。
9月 1日	おかあさんのテレビ学級が開設され、放送利用が開始された。
10月 1日	主事が職名変更になり社会教育主事が発令された。
昭和53年 1月 1日	館長 金城幸明が配置換えにより、館長(兼) 浦本茂則が発令された。
昭和54年 5月 1日	館長(兼任) 浦本茂則が専任館長として発令された。
昭和57年 5月 1日	館長 浦本茂則が配置換えにより、館長 長堂忠一が発令された。
昭和59年 5月 1日	定数増(主事1)
昭和61年 2月16日	第33回沖縄県社会教育研究大会において、優良公民館として表彰される。
4月 1日	主事が公民館主事に職名変更された。
平成元年 4月 1日	館長 長堂忠一が配置換えにより、館長 国場幸忠が発令された。
平成 2年 4月 1日	館長 国場幸忠が退職により、館長 上原武雄が発令された。
6月 3日	中央公民館利用団体連絡協議会が結成された。
12月 7日	第20回沖縄県公民館研究大会において、優良公民館として表彰される。
平成 3年 2月 1日	創立15周年記念誌が発行された。
平成 4年 4月 1日	館長 上原武雄が配置換えにより、館長 佐久本全が発令された。
平成 6年 9月21日	第45回九州地区公民館研究大会(沖縄大会)が、那覇市で開催される。
平成 7年 4月 1日	館長 佐久本全が配置換えにより、館長 山内昌志郎が発令された。
平成 7年 8月 1日	館長 山内昌志郎が配置換えにより、館長 伊元源治が発令された。
平成 8年 4月 1日	公民館主事1減に伴い社会教育指導員1増
平成10年11月 2日	第51回優良公民館として文部大臣表彰を受ける。

平成12年4月1日	館長 伊元源治が退職により、館長 前原信喜が発令された。
平成13年11月16日	全国公民館連合会設立50周年記念式典において、館長 前原信喜が全国公民館優良職員表彰を受ける。
平成14年4月1日	館長 前原信喜が配置換えにより、館長 高江洲盛雄が発令された。
平成15年4月1日	主査1増（時限配置）
平成16年3月23日	公民館条例施行規則が改正され、平成16年4月1日より、若狭公民館に非常勤館長が配置された。
平成16年3月31日	主査1減（時限配置解除）
平成16年11月9日	全国公民館連合会より、館長 高江洲盛雄が全国公民館優良職員表彰を受ける。
平成16年12月27日	公民館条例の改正により公民館運営審議会が廃止された。
平成17年4月1日	館長 高江洲盛雄が退職により、館長 新垣紀夫が発令された。 社会教育指導員1減
平成19年4月1日	館長 新垣紀夫が配置換えにより、館長 入慶田本浩徳が発令された。 社会教育指導員1増
平成21年4月1日	館長 入慶田本浩徳が退職により、館長 前原信喜が発令された。
平成22年4月1日	館長 前原信喜が参事兼館長として発令された。
平成22年11月11日～12日	第61回九州地区公民館研究大会（沖縄大会）が、那覇市（中央公民館ほか7会場）で開催される。
平成23年10月20日	第33回全国公民館研究集会 in さが（佐賀県）において、参事兼館長 前原信喜が全国公民館永年勤続職員表彰を受ける。
平成24年4月1日	参事兼館長 前原信喜が退職により、館長 手登根朗が発令された。
平成26年4月1日	館長 手登根朗が配置換えにより、館長 具志真孝が発令された。
平成27年4月1日	主任公民館主事（主事級）1減、社会教育指導員1減
平成28年3月	中央公民館開館40周年記念誌が発刊された。
平成28年4月1日	館長 具志真孝が退職により、館長 古塚達朗が発令された。
平成30年11月15日～16日	第69回九州地区公民館研究大会（沖縄大会）および第48回沖縄県公民館研究大会（那覇大会）が、那覇市（牧志駅前ほしぞら公民館ほか6会場）で開催される。
平成31年4月1日	館長 古塚達朗が退職により、館長 照屋満が発令された。
令和4年4月1日	館長 照屋満が退職により、館長 砂川龍也が発令された。
令和6年4月1日	館長 砂川龍也が退職により、館長 伊禮道子が発令された。
令和8年4月1日	館長 伊禮道子が配置換えにより、館長 田場壮子が発令された。

Ⅱ 令和7年度中央公民館事業目次

1	学習風景（写真）	9
2	成人一般対象事業	
〔1〕	市民講座	
	◇からだところをリフレッシュ!市民ウォーキング講座	10
	◇昭和100年事業「嗚呼!」～歌の背景を知ると100倍楽しめる～	11
	◇『那覇大綱挽と10・10空襲』～大綱に込められた平和への願い～	12
〔2〕	成人講座	
	◇戦後80年事業「陶工たちの80年」	13
3	高齢者対象事業	
〔1〕	高齢者学級	
	◇「長生き笑顔!高齢者の口腔ケア」～お口の健康意識していますか～	14
	◇スマホ講座アンドロイド編 第1弾・第2弾	15
	◇「うりずん大学」～新しいことは、仲間と一緒にだともっと楽しい～	16
4	青少年対象事業	
〔1〕	少年教室	
	◇秋の宿泊学習	17
〔2〕	青年講座	
	◇与儀公園でゆっくりリラックス星空浴	18
〔3〕	親子ふれあい教室	
	◇おや子でレッツ♪eスポーツ&ポケモンゲーム	19
	◇親子ほしぞらみるみる会	20
5	家庭教育事業	
〔1〕	家庭教育学級	
	◇読み聞かせボランティア養成講座（入門編）	21
	◇親子プログラミング教室	22
	◇こどものココロとカラダを整える大人の教室	
	ソーシャルワーカーから学ぶNVC（共感的コミュニケーション）	23
〔2〕	乳幼児学級	
	◇乳幼児のための救急スキル&コリコリカラダのボディケア	24
	◇乳幼児の命を守る応急手当	25
	◇親子リトミック&クリスマスコンサート	26

6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

- ◇ガーブ川に鯉のぼりを泳がそう・・・・・・・・・・27
- ◇平和を紡ぎつづけるための一歩を地域と共に
～沖縄「平和の礎」戦没者の名前を読み上げる集いin中央公民館～・・・・28
- ◇「未来を守る防災力！」IN神原小学校・与儀小学校・開南小学校・・・・29
- ◇こどもの居場所「お習字教室」・・・・・・・・・・30
- ◇こどもの居場所「ニュースポーツ体験」・・・・・・・・31
- ◇こどもの居場所「色と形であそぼう！」・・・・・・・・32
- ◇にぎわいかフェ「地域の防災を学ぼう」・・・・・・・・33
- ◇さくらルーム「スマホ講座」・・・・・・・・・・34
- ◇さくらルーム「ニュースポーツ体験」・「オンラインコンサート&
カラオケ大会」・「新春の宴」・「オンラインコンサート&いきいき
健康サロン」・「みんなでグラウンドゴルフ！」・・・・35

〔2〕地域学習支援講師派遣事業

- ◇ありがとう与儀公園まつり・・・・・・・・・・36

7 公民館まつり

- ◇第50回那覇市中央公民館まつり・・・・・・・・・・37

1 学習風景



市民講座
昭和 100 年事業「嗚呼！」
～歌の背景を知ると 100 倍楽しめる～



高齢者学級
スマホ講座アンドロイド編 第1弾・第2弾



少年教室
秋の宿泊学習



親子ふれあい教室
親子ほしぞらみるみる会



乳幼児学級
乳幼児のための救急スキル&
コリコリカラダのボディケア



地域連携事業
こどもの居場所「ニュースポーツ体験」

2 成人一般対象事業

〔1〕市民講座

講座名 タイトル		からだところをリフレッシュ！ 市民ウォーキング講座								
事業概要		「ウォーキング」を行うことを通じて、正しい姿勢で歩くことを学び、身体の健康のみならず心の健康に役立つことを体感してもらう。								
現状・課題		那覇市民の日常生活における歩数が20～64歳で6000歩台、65歳以上が5000歩台前後である（令和元年現在「健康なは21第2次本編計画書」）。「健康なは21」（第3次、令和7年度施行）の運動習慣を定着させるための支援の一環で、ウォーキングを行うことの意義と健康への有用性も含め啓発を行う。								
事業目的 めざす姿		講話と実践を交えた講座を開設することによって、身体、心の健康を図り、また参加者を11月9日（日）開催予定の「ひやみかちなはウォーク」の参加に繋げる。								
対 象		那覇市内在住・在勤・在学で医師から運動制限を受けていない人								
募集人数等		定員：20人 申込：20人（うち受講決定数20人） 参加延べ人数：57人 【申込率100%・参加率71%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	10月7日(火)	19:00	～	21:00	中央公民館ホール	16	2	14	－
	02	10月14日(火)	19:00	～	21:00	中央公民館ホール	17	3	14	－
	03	10月21日(火)	19:00	～	21:00	神原小学校地域連携室	13	2	11	－
	04	10月28日(火)	19:00	～	21:00	神原小学校地域連携室	11	2	9	－
内容	01	【講座】ウォーキングの知識を身につける								
	02	【講座・実践】基本の立ち方・歩き方、ウォーキング前後のストレッチの仕方等								
	03	【実践】ウォーキング（会場周辺を検討）（当日は悪天候により座学に変更、会場も中央公民館ホールに変更）								
	04	【実践】ウォーキング（3日目とは異なるルートかつ距離を長くする）								
講 師		仲吉 和美（那覇市ウォーキング協会） 助手：山田 ひとみ（那覇市ウォーキング協会）								
【受講生の様子・感想】										
・正しい姿勢で歩くことを学ぶことが出来て、楽しく歩く習慣を続けられるよう意識づけができました。 ・ウォーキングすることによる効果を実践を交えて学べたので良かった。 ・アンケート結果（満足度）90.9%										
【成果】										
受講者からは「ウォーキングの基本を学べて良かった」「ストレッチや筋力トレーニング等は大変参考になった」との声が聞かれた。ウォーキング実践を通じて歩く事の大切さ、健康になれる事を体感出来た様子だった。アンケート回答した全員が今後も「続ける」「できれば続ける」と回答しており、事業目的をほぼ達成することが出来たと感じた。当講座の受講を機にウォーキングを通じ健康維持・増強に繋がっていただければと思う。										



2 成人一般対象事業

〔1〕 市民講座

講座名 タイトル		昭和100年事業「嗚呼！」～歌の背景を知ると100倍楽しめる～								
事業概要		昭和歌謡は、昭和時代到大ヒットした日本の歌謡曲で、当時の社会や暮らしと深く関わり、多様なジャンルが生まれた。本講座では、歌の背景にある時代や文化、歌詞の意味を探り、全ての世代が歌を通して一体感と達成感を味わう機会を提供する。								
現状・課題		現在も昭和歌謡の人気は根強く、昭和を知らない世代にも一定の関心がある。高齢者には懐かしさを、中学生や若い人には新鮮さを感じてもらえる可能性がある。課題としては、世代間のギャップで若い世代は昭和を知らないため、歌詞やメロディーが感覚的にピンとこない場合が想定される。若い世代に馴染みやすい曲と高齢者が共感しやすい曲をバランスよく組み合わせる必要がある。								
事業目的 めざす姿		昭和歌謡を通じ、中学生から高齢者まで多世代が共に楽しむ場を設け、歌を鑑賞するだけでなく、共に歌い身体を動かし一体感を育む。知らなかった昭和の歴史や文化など、新たな知見を得て、曲への思い出や時代背景に思いを馳せる。世代間の共感と理解を深め、心のつながりを育む交流の場とする。								
対 象		昭和歌謡に興味がある人・那覇市在住・在勤・在学中で中学生以上（中学生は保護者同伴）								
募集人数等		定員：20人 申込：23人（うち受講決定数23人） 参加延べ人数：20人 【申込率115%・参加率87%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	10月17日(金)	19:00	～	21:00	中央公民館ホール	20	8	12	—
内容	01	昭和歌謡の中から、選定された20曲の歌の歴史や時代背景などを講師から説明を聞き、鑑賞し共に歌う。								
講 師		糸数 剛（ギターでうたごえ講師）								
【受講生の様子・感想】										
・みんなの歌声は迫力があって良かった。 ・企画がとても良かった。とても楽しい講座でした。 ・先生のギターだけでも満足。 ・「歌の背景を知ると100倍楽しめる」のサブタイトルどおりに、昭和歌謡トリビアのオンパレードに、笑いと初めて知る歴史にうなずく受講生がいた。 ・アンケート結果（満足度）90%										
【成果】										
・講座のコンセプトや内容が、受講者の期待に合致していた。 ・参加者の95%が60歳以上で、若者の参加者が2名であったので、企画内容は全対象者には届いていないと感じた。 ・みんなで一緒に歌うことができた。楽しい時間の共有ができたと思う。 ・60歳以上の方に興味関心度が高く、日中の開催を希望する声が多数あった。 ・講師のギター演奏や昭和歌謡のトリビアなど、講師の専門性や魅力が満足度に貢献した。講師が指導しているサークルへの参加を促すことができた。										







2 成人一般対象事業

〔1〕 市民講座

講座名 タイトル		『那覇大綱挽と10・10空襲』～大綱に込められた平和への願い～								
事業概要		琉球王国時代から続く那覇の伝統的な行事として、綱挽やハーリー、ジュリ馬行列がある。 那覇大綱挽の歴史を学び、10・10空襲と大綱挽の関係性を知ること、平和を強く希求する想いを分かち合う。								
現状・課題		那覇大綱挽は、太平洋戦争や社会情勢の混乱で、1935年を最後に一旦終了。以降中断されていたが、1971年に市制施行50周年事業として、那覇市を壊滅させた10・10空襲と同じ10月10日に復活した。これは、戦災からの復興と平和への強い願いが込められている。市民への歴史的背景の理解促進と平和への意識共有が重要である。								
事業目的 めざす姿		「まつり」が行える平和な世の中であることを実感し、平和を強く希求し、平和の大切さを考えて活動する意欲を持つ市民の育成を図る。								
対 象		那覇市在住・在勤・在学の人・テーマに関心のある人。								
募集人数等		定員：30人 申込：21人（うち受講決定数21人） 参加延べ人数：17人 【申込率70%・参加率81%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	10月19日（日）	10:00	～	12:00	中央公民館ホール	17	8	8	1
内容	01	琉球王国時代に行われていたまつりや、10月10日に行われていた、那覇大綱挽の歴史を学ぶ。								
講 師	鈴木 悠（那覇市歴史博物館 学芸員）									
【受講生の様子・感想】										
・旗頭と綱引きの関係性について深く知ることができた。 ・那覇大綱挽について学ぶことができた。 ・10・10空襲についての説明が非常にわかりやすかった。 ・10月10日開催が通説で言われていることと違い、『体育の日』が優先していたという話は新鮮で興味深かった。 ・アンケート結果（満足度）87.5%										
【成果】										
・今日の講話を家族に話をしていきたいというアンケートも見られ、歴史的知識の習得だけでなく、新たな視点の提供と学習者の行動変容（家族への共有）に繋がったという点で、講座の教育的効果が高かったことを示している。 - 特に、通説と異なる事実を知ること、新たな知見と深い学びが得られた。										





2 成人一般対象事業

〔2〕成人講座

講座名 タイトル		戦後80年事業「陶工たちの80年」								
事業概要		沖縄戦後、「陶器製造産業先遣隊」として壺屋に戻った陶工たちの復興とは、どんなものだったのか。壺屋焼を支えた陶工たちの戦前・戦後を学ぶ。								
現状・課題		戦後80年、いろいろな形で沖縄戦や沖縄の復興について語られているが、壺屋焼の陶工たちが戦後復興に貢献したこと、また「陶器製造産業先遣隊」のことはあまり知られていない。								
事業目的 めざす姿		私たちが住む那覇市「壺屋」の戦前・戦後を知ること、那覇市の復興を支えた陶工たちの努力や「なぜ読谷に行かなければいけなかったのか」など、地域の姿を知ってほしい。								
対 象		那覇市在住、在勤、在学の人								
募集人数等		定員：20人 申込：24人（うち受講決定数24人） 参加延べ人数：19人 【申込率120%・参加率79%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	3月8日(日)	14:00	～	16:00	中央公民館ホール	19	9	10	—
内容	01	壺屋焼物博物館の学芸員主査の倉成氏に、戦前戦後を生きた壺屋の「陶工たちの80年」について講話いただく。								
講 師	倉成 多郎（壺屋焼物博物館 学芸員主査）									

【受講生の様子・感想】

アンケートからは、「80年の状況変化に合わせて、壺屋焼が変わってきたことを実感した。ある時は日用品、そして美術品へと次々と姿が変わって行くことに無常を感じた」といった、壺屋焼の変遷とそれに伴う感慨が寄せられた。また、「民藝運動関係者とかかわりが現在の壺屋焼に対する一般的なイメージの元ということが分かり大変興味深かった」と、新たな知見に対する喜びの声も挙がっている。全体的に「時間が足りない」という声が多数聞かれ、受講者の学習意欲の高さがうかがえた。

・アンケート結果（満足度）満足度94.7%

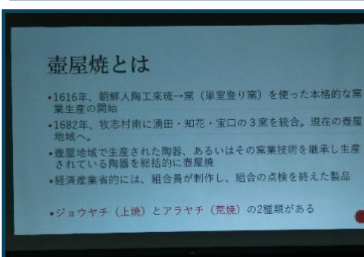
【成果】

今回の講座は、「私たち那覇市民が住む『壺屋』の戦前・戦後を知ること、那覇市復興を支えた陶工たちの努力や『なぜ読谷に行かなければいけなかったのか』など、地域の姿を知ってほしい」という事業目的に対し、極めて有効な手段であったと確信している（定員20名に対し、それを上回る応募があり、市民の皆様の関心の高さを肌で感じる事ができた。）。講話中、休憩もなかったがみなさん食い入るように聞いており、受講者が壺屋焼の歴史と、それが地域に果たした役割に深く没入していたと感じる。さらに「陶工たちが戦前・戦中・戦後と時代に流される様子、個々の生き方をもっと知りたくなった」との意見もあり、参加者の探求心を刺激できたと考える。事業の結果、参加者の皆様が壺屋焼を単なる焼き物としてではなく、那覇市の復興を支えた歴史や文化として深く理解し、地域への愛着を深めていただけたと思う。



壺屋焼とは

- ・1616年、朝鮮人陶工来琉→京（軍室登り窯）を使った本格的な窯業生産の開始
- ・1682年、牧志村南に清田・知花・宝口の3窯を統合。現在の壺屋地域へ。
- ・壺屋地域で生産された陶器、あるいはその窯業技術を継承し生産されている陶器を総括的に壺屋焼
- ・経済産業省的には、組合員が制作し、組合の点検を終えた製品
- ・ジョウヤチ（上焼）とアラヤチ（荒焼）の2種類がある



3 高齢者対象事業

〔1〕高齢者学級

講座名 タイトル		「長生き笑顔！高齢者の口腔ケア」～お口の健康意識していますか～								
事業概要		今回の講座は、「健康なは21」（第3次 令和7年度施行）のテーマ「一人ひとりが健康づくりに取り組み、健康長寿を実現する」～生涯にわたり、心身ともに元気（長寿）で暮らせるまちの実現を目指す～に対応したものである。口腔機能低下症について学ぶ。被災地のトイレ事情について知る。								
現状・課題		口腔機能低下症に対する、一般市民の認知度や理解度が、まだ十分ではないと思われる。症状が出ているにも関わらず、「歳のせい」と諦め、適切な予防や対策、治療に繋がらないケースがある。早期発見・早期対応の重要性が認識されていない。 被災地のトイレ事情を知る機会が乏しく、災害時のトイレに関する知識が不足している。高齢者、障がい者、乳幼児、女性など、多様な利用者のニーズに合わせたトイレ環境の確保が難しい現状がある。								
事業目的 めざす姿		生涯お口からおいしく食べる力・機能を維持させるために、正しい歯とお口のケアを学んで習慣化につなげる。8020（80歳で20本以上の歯を保つ）達成を目指し、生涯を通じて歯・口腔の健康を意識して生涯お口からおいしく食べることができるようにする。災害時のトイレ問題の深刻さを理解し、個人や家庭に必要な備え（携帯トイレの備蓄など）を自主的に行うようにする。								
対 象		那覇市在住・在勤・在学の60歳以上の人、その家族								
募集人数等		定員：30人 申込：16人（うち受講決定数16人） 参加延べ人数：13人 【申込率53%・参加率81%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	6月4日(水)	14:00	～	16:00	中央公民館ホール	13	4	9	－
内容	01	口腔機能低下症について学ぶ。 被災地のトイレ事情について知る。								
講 師		嘉手納 一彦（那覇市口腔保健支援センター 歯科医師）								
【受講生の様子・感想】										
・口腔ケアの重要性をわかりやすく説明していただいて大変勉強になりました。 ・簡単なお口のトレーニング法も学べて良かった。 ・被災地のトイレ事情が知りたくて受講した。家族や知人に伝えます。 ・アンケート結果（満足度）100%										
【成果】										
食事中にむせる家族を持つ受講者からは、食べ方や姿勢改善の話をしますとアンケートにみられた。これは、講座での学びを日常生活に活かしていく、実践的な効果を示している。 また、災害時のトイレ事情を学んだ受講者が家族や町内会への情報共有を決意したアンケートは、講座が参加者の意識を高め、地域全体の防災意識向上に貢献したことを裏付ける。 今回の講座は、災害対策に関心の高い層からの申し込みが多数を占めていたことが特長として挙げられる。										







3 高齢者対象事業

〔1〕 高齢者学級

講座名 タイトル		スマホ講座アンドロイド編 第1弾・第2弾								
事業概要		高齢者のスマホ利用は、電話などの基本機能に限定されがちと想定される。本講座は、多様な機能を学び生活利便性向上を目指す。図書館の図書予約や公民館施設予約を実践し、オンライン利用を促進。単なる機能紹介でなく、デジタル情報の判断や安全活用できるリテラシー基礎習得を図る。								
現状・課題		モバイル社会研究所2024年8月調査では、70代約6割、80代約7割がスマホの使いこなしに不安を感じている。一方、活発な利用によるアプリ解約忘れでの料金加算、ワンクリック詐欺、特殊詐欺被害のリスクも想定される。現状は説明書もなく自己学習頼みだが、本講座は講師の用意したテキストで解決を図る。								
事業目的 めざす姿		スマートフォンの機能理解と活用法習得を目指す。「よやくーる」での公共施設予約、電子図書館やデイジー図書館の利用を可能にし、デジタル社会の便利さを享受。公共サービスのオンライン活用を実践的に学ぶことで、市民生活の質向上と今後のオンライン利用促進に繋げることを目指す。								
対 象		那覇市在住・在勤・在学の60歳以上の人								
募集人数等		定員：20人 申込：42人（うち受講決定数39人） 参加延べ人数：99人 *2回に分けて開催 1回目：20人 2回目：19人 【申込率210%・参加率82.5%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	6月11日(水)	14:00	～	16:00	神原小地域連携室	19	2	17	—
	02	6月18日(水)	14:00	～	16:00	中央公民館ホール	18	2	16	—
	03	6月25日(水)	14:00	～	16:00	中央公民館ホール	16	2	14	—
	04	7月1日(水)	13:00	～	15:00	中央公民館ホール	18	5	13	—
	05	7月8日(水)	13:00	～	15:00	中央公民館ホール	14	6	8	—
	06	7月15日(水)	13:00	～	15:00	中央公民館ホール	14	4	10	—
内 容	01	役に立つスマホの基礎（検索、動画：YouTube、撮影と編集：カメラ等）								
	02	Googleフォト（写真保存）、MAP（ナビ、バス使い方）、LINE（写真保存・送り方）								
	03	アプリのインストール体験、電子図書館のデモ利用、よやくーるの使い方等								
	04	役に立つスマホの基礎（検索、動画：YouTube、撮影と編集：カメラ等）								
	05	Googleフォト（写真保存）、MAP（ナビ、バス使い方）、LINE（写真保存・送り方）								
	06	アプリのインストール体験、電子図書館のデモ利用、よやくーるの使い方等								
講 師		房前 三男（公益社団法人那覇市シルバー人材センター）								
【受講生の様子・感想】										
・スマホのアプリや用語を理解できた。 ・まったく初めての人には、回数が足りない上、覚えることが多すぎた。 ・アンケート結果（満足度）平均（01～06） 82.2% 1回目（01～03） 81.3% 2回目（04～06） 83.3%										
【成果】										
初回募集で定員を大幅に超えたため、同一講座を2回実施することになったことから、高齢者のスマートフォンに対する高いニーズが明確になった。これにより、基本操作に課題を持つ層へ効果的にアプローチできたと認識できた。参加者からは「少しずつ知る」「もっと知りたい」という積極的な学習意欲が見られた。この成果を踏まえ、今後はすべての初心者層が安心して学べるよう、「ついていけない」と感じさせない、より柔軟な講座展開を検討する。具体的には、開催回数を増やしたり、定例化するなど、企画改善を通じ継続的な学習機会を提供していく。										





3 高齢者対象事業

〔1〕高齢者学級

講座名 タイトル		「うりずん大学」～新しいことは、仲間と一緒にだともっと楽しい～								
事業概要		近年、人生100年時代といわれるなかで、高齢期の生活が長期化し、地域での仲間づくりや生きがいがづくりの重要性が高まっている。本市の高齢化率は 24.4%で、令和 7 (2025) 年は団塊の世代が75 歳以上となり、おおよそ 4 人に 1 人が高齢者となる中で、一人ひとりが、新しいことに挑戦し、自分らしい楽しみを見つけることがこれまで以上に大切だと考える。本講座は、多彩な4回のプログラムに触れることで、日常に新しい刺激と出会いを加え、その学びの場から、新たな趣味の芽が育ち、同じ想いを共有できる仲間の輪を広げるための一助とする。								
現状・課題		現状では、多くの高齢者が「新しい趣味に挑戦したい」という意欲を持つ一方で、「一人で始めるのは気後れする」と感じ、行動に移せないという課題がある。結果として、初めての一步が踏み出せない現状が見受けられる。								
事業目的 めざす姿		受講生と同世代の講師を選定することで、親近感がわきやすい環境を作る。 「楽しい時間の共有」を重視し、「失敗しても大丈夫」という安心感を提供することで、誰もが気軽に参加できる雰囲気を作り出す。 体験型講座を提供することで、新しい趣味への「入口」として機能させ、挑戦へのハードルを下げる。シニア世代の皆さんが、心と体を豊かにし、共に学ぶ仲間とつながることを目的とする。高齢者の社会参加促進・孤立防止と、新しい趣味の発見による生活意欲の向上を目指す。								
対 象		那覇市在住・在勤の 6 0 歳以上で、医師から運動制限を受けていない人								
募集人数等		定員：20人 申込：17人（うち受講決定数8人） 参加延べ人数：35人 【申込率85%・参加率109%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	11月5日(水)	10:00	～	12:00	中央公民館ホール	8	1	7	—
	02	11月12日(水)	10:00	～	12:00	中央公民館ホール	7	1	6	—
	03	11月19日(水)	10:00	～	12:00	中央公民館ホール	8	1	7	—
	04	11月26日(水)	10:00	～	12:00	中央公民館ホール	12	0	12	—
内 容	01	SP盤レコードコンサート								
	02	お習字								
	03	生花								
	04	ディスコダンス								
講 師		01：山城政幸 02：鶴谷公子 03：緒方哲治 04：上原京子								
【受講生の様子・感想】 (SP盤) 蓄音機の音のすばらしさに感動しました。貴重な体験でした。 (書道) 書道の基本的な筆使いが学習できました。 (生花) これから自由に好きな花を生けて楽しみます。 (ディスコダンス) 昔なじみのある音楽で体を動かすことは楽しい。 ・アンケート結果（満足度）91.2%										
【成果】 受講生は新しい体験を通じて学びの喜びと生きがいを見出し、共通の趣味を持つ仲間と交流を深めた。自ら活動的に社会参加する行動変容が見られ、孤立防止と生活意欲向上に貢献している。募集期間が短かったものの、本講座は体験型として成功したと考える。少人数のため、講師陣へ気軽に質問ができ、同世代同士の他愛のない会話を楽しみ、充実感にあふれた時間であった。アンケートでも継続希望や同テーマの要望があり、今後もこのような講座を継続していく必要を感じる。										



4 青少年対象事業

〔1〕 少年教室

講座名 タイトル		秋の宿泊学習								
事業概要		小学校4年生から6年生を対象に「自立心の育成」や「協調性とコミュニケーション能力の向上」を目的とした宿泊学習を、玉城青少年の家で実施する。								
現状・課題		宿泊学習でも他校の児童と寝食を共にする体験や、野外炊飯やキャンドルファイヤー、自然に触れるアクティビティの体験が少なくなっている現状がある。								
事業目的 めざす姿		①親元を離れ、異年齢の児童と寝食を共にすることで協調性やコミュニケーション力、人を思いやる心などを育てる。 ②野外炊飯やキャンドルファイヤー、ネイチャーゲームなど自然体験を通して創造性豊かな人間形成を目指す。								
対 象		那覇市内在住、在学の小学校4年生から6年生								
募集人数等		定員：20人 申込：49人（うち受講決定数20人） 参加延べ人数：19人 【申込率245%・参加率95%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	
	01	10月4日(土)	13:00	～	0:00	沖縄県立玉城青少年の家	19	11	8	
	02	10月5日(日)	0:00	～	12:00					
内 容	01	10/4 ・危険予知トレーニング ・野外炊飯（カレー作り） ・キャンドルファイヤー ・星空観察								
	02	10/5 ・ネイチャーゲーム								
講 師		・南 真人（那覇市子ども会育成連絡協議会 事務局長） ・ジュニアリーダー4人（那覇市子ども会育成連絡協議会） ・天願 こずえ（沖縄あたびいシェアリングネイチャーの会 代表）								
【受講生の様子・感想】										
・いろいろな人と交流していろんな経験ができていいと思いました。 ・違う学校の人たちと一緒にしゃべったり交流できたので、とてもよかったです。 ・アンケート結果（満足度）94.7%										
【成果】										
・野外炊飯での火起こしや、キャンドルファイヤーなどを初めて経験したという声が多く、本講座の課題として挙げている『自然に触れるアクティビティの体験』の改善につながったと感じる。 ・学校や学年関係なくグループに分かれ集団行動をしたことで、一人一人が自分の役割を理解し、責任感や協力の重要性について学んでもらうことができた。 ・講座実施後のアンケートからも「学年や学校の違う人たちと仲良くできて良かった」「次も参加したい」との声があり、事業目的である児童の協調性やコミュニケーション力の向上が期待される。 ・那覇市子ども会育成連絡協議会に講師をお願いしたことで、ジュニアリーダーとして活動する子どもたちの活動の場を作ることができた。										





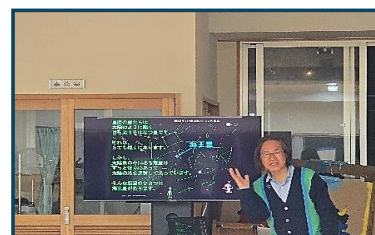


4 青少年対象事業

〔2〕青年講座

講座名 タイトル		与儀公園でゆっくりリラックス星空浴								
事業概要		特定非営利活動法人・星のソムリエ機構から機構長の柴田晋平氏を招き、40歳未満の青年層を対象に、冬や春の星座・宇宙を学び、与儀公園での星空観察を通じて「何もしない時間」を共有する。個人の感性を大切にしながら、SNS等で地域の魅力を発信するデジタルアーカイブ活動を並行して行う。								
現状・課題		青年層は日常の役割（仕事・育児）に追われ、「個」としての時間が不足している。また、従来の公民館講座はこの世代には「教育臭」が強く感じられると思われ、またこの世代の感性やライフスタイルに合致しておらず、参加のハードルとなっている。								
事業目的 めざす姿		役割から離れ、一人の人間として精神的なゆとりを得ることで、個のリフレッシュを図る。 属性に縛られない緩やかな交流を生むことで、自然な多世代共生を目指す。 ネット活用により、地域の魅力を自分の言葉で記録・共有することで、共感の発信をしてもらう。								
対 象		那覇市在住、在勤、在学の40歳未満の人								
募集人数等		定員：10人 申込：13人（うち受講決定数13人） 参加延べ人数：13人 【申込率130%・参加率100%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	3月21日(土)	18:30	～	20:30	与儀公園グラウンド ・神原小地域連携室	13	2	11	0
内容	01	季節の星座を学んだあと、与儀公園のグラウンドで冬の星座を堪能してもらう。								
講 師	柴田 晋平（特定非営利活動法人 星のソムリエ機構 機構長）									
【受講生の様子・感想】										
「内容が難しかったですが、興味深く聴くことが出来ました。とても楽しく学ぶことができました」「スライドショーの図を画像をみながら、わかりやすい解説でした。宇宙の話面白かったです。」当初の予定は与儀公園でシートを引きグラウンドに転がりながら星の話を聞く予定でしたが、曇り・小雨の天気だったため、神原小学校地域連携室での座学になった。 ・アンケート結果（満足度）100%										
【成果】										
この講座は、多忙な20～30代の青年層（特に保護者）を主なターゲットとし、日常の役割から解放され、心身ともにリフレッシュできる時間を提供した。当初の星空浴は雨天で叶わなかったが、地域連携室での座学に切り替えることで、参加者はパワーポイントを通じ星や宇宙の知識を深め、知的好奇心を満たす貴重な学びの機会となった。 参加者がまさに狙っていた青年層であったことは、本事業の大きな成果である。天候に左右されず、座学という形でも参加者の興味を引きつけ、知的な満足感と精神的なゆとりを提供できたことは、この世代のニーズに応えられたものとする。今後も、青年層に特化した企画を継続することで、彼らの「個」の時間と学びの機会を作っていく。										





4 青少年対象事業

〔3〕親子ふれあい教室

講座名 タイトル		おや子でレッツ♪eスポーツ&ポケモンゲーム								
事業概要		eスポーツやカードゲームを親子で体験し対戦することで、子どもが興味を持つモバイルゲームやポケモンカードゲームについて親が知るきっかけ作りにする。また、普段使い慣れているインターネットを適切に利用するネットリテラシーについて、家庭で学ぶきっかけ作りをする。								
現状・課題		eスポーツは世界中でさまざまな大会が開催され、プロプレイヤーは若年層の憧れる職業となってきたが、それを理解している保護者が少ない。 親子でeスポーツやカードゲームを体験する機会が少なく、子どもがなぜゲームに熱中するのかを理解するきっかけに乏しい。 親子でITリテラシーを考える機会が少ない現状がある。								
事業目的 めざす姿		eスポーツやポケモンカードゲームを通して親子でゲームを楽しみ、eスポーツを理解することで、家庭の中でITリテラシーを考える機会を作る。								
対 象		那覇市内小学校3年生～6年生とその保護者								
募集人数等		定員：20組 申込：13組（うち受講決定数13組） 参加延べ組数：13組 （28人） 【申込率65%・参加率100%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	8月17日(日)	14:00	～	17:00	中央公民館ホール	28	3	10	15
内 容	01	①開会式 ②講師からのお話（自己紹介・eスポーツについて） ③操作の説明と講師による操作見本の披露 ④親子で興味のあるゲーム体験へGO ⑤閉会式　まとめ（eスポーツはネットにつながること。その危険性について）								
講 師	新里 渉（合同会社 アップセット 代表）									
【受講生の様子・感想】 本講座では、異なる学校の同年代の子どもたちが交流し、楽しそうに過ごしていた。保護者からは「ゲームだけでなく、インターネットの怖さを教えてくれたのが良かった」や「ポケモンバトルはハードルが高いのでマリオカートやスイカゲームなどで子どもと楽しみたい」との意見もあり、保護者のeスポーツへの関心は深まった。親子で一緒に楽しめる工夫への期待が寄せられ、参加者からはイベントの継続を希望する声をいただいた。 ・アンケート結果（満足度）96.4%										
【成果】 本講座は、eスポーツ体験とITリテラシー学習という二つの目的を持ち、子どもたちの心から楽しんでいる姿や、保護者からインターネット学習への高い評価が得られたことは、本企画が目的達成のための適切な手段であったことがわかる。また、保護者からはITリテラシーの重要性に対する認識が深まり、他のゲームへの関心、そしてイベント継続への強い期待が寄せられた。これらは、本事業が目指す「家庭でのITリテラシーを考える機会」に一歩近づいたと考える。受講者である子どもたちには、ゲームへの新たな興味が芽生え、ITリテラシーに関する新たな気づきがあったことも大きな成果だと感じている。ただ今回ゲームにはあまり親が参加しておらず、今後は、親も共に楽しめるような工夫を取り入れることで、さらなる教育効果が期待できる。										









4 青少年対象事業

〔3〕親子ふれあい教室

講座名 タイトル		親子ほしぞらみるみる会								
事業概要		近隣の小学生を対象に、モバイルプラネタリウムで季節の星空を学んだあと、公園内で一等星や惑星を実際に観望、那覇市内でも星空観察ができることを体感してもらい、与儀公園の自然環境に興味を持ってもらう。また3月3日に起こる皆既月食についても学ぶ。								
現状・課題		那覇市などの都市では星は見えないと思っている市民が多いが、一等星や惑星などは少し暗い場所に行けばきれいにすることができる。 身近な与儀公園で、オリオン座など冬の星座が見れることを親子で体験し、与儀公園にある自然に興味を持ってほしい。								
事業目的 めざす姿		与儀公園の静かな環境の中、親子で自然の雄大さを感じたり、地球と宇宙のつながりを意識するきっかけをつくり、共通のテーマで会話をすることで、親子のコミュニケーションの向上を目指す。								
対 象		那覇市内の小学校の親子								
募集人数等		定員：15組 申込：12組（うち受講決定数12組） 参加延べ組数：11組 （25人） 【申込率80%・参加率92%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	2月27日（金）	19:00	～	21:00	中央公民館・与儀公園	25	4	8	13
内容	01	①中央公民館ホールで冬の星空と3月に起こる月食など今年の天文現象を学ぶ。 ②与儀公園内で実際に冬の星座を探し、望遠鏡で木星などを見る。								
講 師		米原 英樹（フィールドスタディ沖縄）								

【受講生の様子・感想】

受講生は、これまで興味のなかった天体観測へ関心を深め、「自分でも天体観測にチャレンジして知識を深めてみます」といった自律的な学習意欲を示した。親子で共に体験し、学びを得る機会に高い満足度を示し、「子どもたちに新しい世界を見せることができてよかった」といった声もあり、新たな世界への気づきと継続学習への意欲が強く見られた。

・アンケート結果（満足度）100%



【成果】

事業の結果、受講生は「自分でもっとやってみよう」という前向きな気持ちになるなど、自然の面白さを実感し、親子の関係も会話が増えるなど良い方向へ進んだと感じる。これは、本事業が当初目指した姿にしっかりと近づけたことを意味する。受講生からは「子どものころよく星を見ていたことを思い出した。友人と星を見ていたことは良い思い出です。」といった声も寄せられた。星を見ることが懐かしい出来事を思い出し、新たな体験と共に記憶に刻まれたことが伺える。特に「自ら知識を深めたい」といった積極的な声は、受講生の意識だけでなく、具体的な行動にも良い変化が見られ、今後の学習や活動への期待を高めるものである。今回は雨天時でも対応できるようにモバイルプラネタリウムをホールに設置し開催した。このことが満足度の高さにつながったと考える。



5 家庭教育事業

〔1〕家庭教育学級

講座名 タイトル		読み聞かせボランティア養成講座（入門編）								
事業概要		沖縄県子どもの本研究会と連携し、絵本の読み聞かせの基礎を学ぶ講座を実施する。本の持ち方や読み聞かせに使う小道具作りなどのスキルを習得し、地域活動として近隣こども園や保育園での実践も取り入れる。								
現状・課題		読み聞かせ活動は、子どもの想像力や語彙力を育み、読書習慣を形成する上で重要である。親や地域の読み聞かせボランティアによる読み聞かせは、子どもの成長において重要な事柄の一つとなっている。子どもの読書活動を推進するために、大人が読書活動の意義や重要性を学べる機会を提供することが必要となる。 （「第4次那覇市子どもの読書活動推進計画」より）								
事業目的 めざす姿		読み聞かせの基礎や読書活動の重要性について学んでもらい、子どもの読書活動を推進できる人材の養成を目的とする。また、関係機関との連携を通じて、講座で得た知識を地域で実践し、読書活動の普及に取り組んでいる活動に繋がることを目指す。								
対 象		市在住・在勤・在学で、市内で読み聞かせボランティアの活動をしている人、これから始めたいと思っている人。								
募集人数等		定員：40人 申込：23人（うち受講決定数23人） 参加延べ人数：96人 【申込率58%・参加率83%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	5月21日(水)	10:00	～	12:00	中央公民館ホール	20	1	19	-
	02	5月28日(水)	10:00	～	12:00	中央公民館ホール	18	1	17	-
	03	6月4日(水)	10:00	～	12:00	中央公民館ホール	19	1	18	-
	04	6月11日(水)	10:00	～	12:00	中央公民館ホール	20	1	19	-
	05	6月18日(水)	10:00	～	12:00	中央公民館ホール	19	1	18	-
内 容	01	読み聞かせの必要性と方法								
	02	絵本の種類と選び方								
	03	小道具を使って読み聞かせを楽しもう								
	04	読み聞かせにチャレンジ								
	05	園児を招いて読み聞かせにチャレンジ								
講 師		第1回：平田 千悦子（子どもの本研究会 理事） 第2回：松川 まゆみ（子どもの本研究会 理事） 第3回・第4回：平良 京子（子どもの本研究会 顧問） 山内 淳子（子どもの本研究会 副会長） 第5回：山内 淳子（子どもの本研究会 副会長）								
【受講生の様子・感想】										
・絵本のもっている力に魅了されました。さらに学習を続け読み聞かせを楽しみたいと思います。 ・子育てをする前に知っていればもっと楽しく子育てが出来たかと思いました。今後は孫の為に共に楽しみながら活用していきたいと思います。 ・アンケート結果（満足度）78.9%										
【成果】										
・講座終了後、家庭での読み聞かせ活動を積極的に行いたいとの声が多く、事業目的達成につながったと考える。 ・地域の児童館や図書館で読み聞かせボランティア活動を希望する修了生も見られ、読書活動普及の取り組みにつながった。 ・実施日が平日だったため参加しづらいとの声が多く寄せられた。次年度は多くの方が参加できるよう、開催日時を工夫していく。										





5 家庭教育事業

〔1〕家庭教育学級

講座名 タイトル		親子プログラミング教室								
事業概要		①小学校5・6年生の児童とその保護者を対象に、児童は自らでプログラミングしゲームを作る。 ②保護者はデジタルリテラシーを学び、その後児童が作ったゲームと一緒にプレイする。								
現状・課題		児童がインターネットに触れることへの危険性を認識している保護者が増えてきているが、その具体的な対策を実施している家庭は多いとは言えない。またSNS上の危険性や情報リテラシー（フェイクニュースや詐欺など）に関心が薄い保護者もいる現状がある。								
事業目的 めざす姿		児童はゲームをプログラミングすることで理論的思考や創造力を育てること、保護者はデジタルリテラシーを学ぶことでインターネットやSNSの危険性への関心を高めることを目的とし、親子でフェイクニュースなどが氾濫するインターネット情報を、適切に見極める力を養うことを目指す。								
対 象		那覇市内在住、在勤、在学の小学校5年生から6年生とその保護者								
募集人数等		定員：10組 申込：10組（うち受講決定数10組） 参加延べ組数：7組 （20人） 【申込率100%・参加率70%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	11月9日(日)	14:00	～	16:00	中央公民館ホール	20	3	5	12
内容	01	①子どもがゲームをプログラミング。 ②子どもがプログラミング中に保護者はデジタルリテラシー（ネット社会での考え方やスキル）を学ぶ。 ③子どもが作ったゲームを親子でプレイする。								
講 師	大森 洋介（合同会社0 代表）									

【受講生の様子・感想】

本講座アンケートでは、保護者から「子どもたちが個々に作ったゲームを見せ合い、楽しめたのが良かった」という感想と共に、「未来の子どもたちを取り巻く環境を学び、親も学ぶ必要性を感じた」との声が寄せられた。子どもたちからは「先生のお話が分かりやすかった。家に帰ってすぐに自分のタブレットで作ってみたい」という意欲的なコメントも。講座では、保護者がデジタルリテラシーを、子どもがプログラミングを学び、活発な意見交換と制作活動が見られ、非常に有意義な時間となった。

・アンケート結果（満足度）100%

【成果】

本講座では、最初は親子を別室に分け、親にはITリテラシーを中心に、現在の経済状況や子どもたちを取り巻く社会情勢について深く学んでもらい、子どもたちにはスクラッチを用いたオリジナルゲーム作りを実践的に学んでもらった。講師の説明が非常に分かりやすかったため、保護者の方々はデジタル社会におけるITリテラシーの重要性を強く認識し、「もっと学ばなければ」という意識を明確に芽生えさせていた。子どもたちが制作したゲームは、一つ一つに彼らの個性と創造力が発揮され、大変興味深いものであった。那覇市在住・在勤・在学の小学校5・6年生とその保護者という対象者に適切にアプローチし、その結果、受講者たちが当初目指していた「インターネット情報を適切に見極める力」を養う姿に確実に近づいたと思う。受講者の意識変容や今後の行動変容にも繋がる、意義深い講座となった。



5 家庭教育事業

〔1〕家庭教育学級

講座名 タイトル		こどものココロとカラダを整える大人の教室 ソーシャルワーカーから学ぶNVC（共感的コミュニケーション）								
事業概要		本講座はワークショップ形式の参加型プログラムである。NVC（非暴力コミュニケーション）の共感コミュニケーション（共感カード）をツールとして活用し、子どもとの新たなコミュニケーション方法を学ぶ。参加者同士がお互いの「大事にしているもの」を聴きあうことで、自身の内なる対話（自己内省）を深める。また、相手の言葉の奥にある意図を推測し、効果的な対話の練習を行うことで、より豊かな人間関係構築を目指す。								
現状・課題		多様な家庭環境、いじめ、不登校、虐待、貧困など、家庭教育は様々な課題を抱える。特に沖縄県では、地域要因が絡み課題はより複雑化。多様な子どもたちと向き合うには、従来の画一的アプローチでは不十分と思われる。彼らの背景を理解し、ニーズを汲み取るコミュニケーションスキル向上が、健やかな成長を支える上で不可欠であると考える。								
事業目的 めざす姿		家庭教育を支援する関係者等に対して、専門知識を深め、技術等を高めるスキルアップの研修を通してその充実を図る。併せて市町村主体の家庭教育支援や、子育て支援に関わる人材の育成につなげる。								
対 象		保護者、児童支援員、教育相談支援員、民生委員・児童委員、学校関係者、自治会長等家庭教育に興味のある方を対象とする。								
募集人数等		定員：30人 申込：54人（うち受講決定数54人） 参加延べ人数：42人 【申込率180%・参加率78%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	2月1日(日)	14:00	～	16:00	中央公民館ホール	42	7	34	1
内容	01	・NVCの観察、感情、ニーズ、リクエストの4要素の説明【誤解や偏見、思い込みを注意深く見極め（観察）、「今」の気持ち（感情）と、その奥にある大事に思っていること・価値を置いていること（ニーズ）を明確にしていくと、本当にやりたいこと・望むことを見出し、自らの力で実現する原動力（リクエスト）が身体の内側に生まれることを学ぶ】 ・ディープリスニング【二人組になり、交代で3分ずつハートから語る人、ハートで聞く人に分かれて「深く聴く」練習。その後、聞えてきた、相手の大切なニーズ（ニーズカード）を選びプレゼント。】 ・玉城小学校5年生の「きりんの時間」でNVCのエッセンスを用いて、毎朝15分間の取り組みの事例のアンケート報告								
講 師		新垣 道代（沖縄県家庭教育アドバイザー・スクールソーシャルワーカー）								
【受講生の様子・感想】										
・体験的なワークが前半にあり、実感を持って理解できた。 ・とてもわかりやすい。子どもにも通じる内容だったと思います。 ・まずは、いつも後回しにしている自分の子どもの話を聞くことからスタートします。 ・アンケート結果（満足度）100%										
【成果】										
「学ぶことが多く、また参加したい」「仕事や家庭で使いたい」といった声から、実践的な学びを提供できたことが示唆される。これは、広報が適切に対象者に届き、コミュニケーションスキル向上に関心のある幅広い層（保護者・教育関係者）に響いた結果と推測。参加者はNVCの重要性を理解し、関係改善への意欲が高まったと思われ、今後「子どもの話を聞く」など、具体的な行動変容への高いモチベーションが見られた。受講者同士でNVCを学べる場所の情報交換が行われたことや、子育ての悩みを共有できるメンバーと知り合えたことで安心安全な場づくりに貢献できたことは、学びの継続性とコミュニティ形成の観点からも大きな成果であった。										



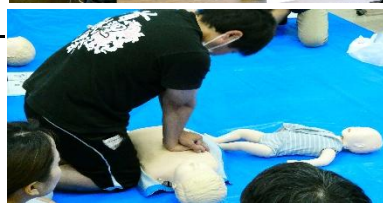


5 家庭教育事業

〔2〕乳幼児学級

講座名 タイトル		乳幼児のための救急スキル&コリコリカラダのボディケア								
事業概要		乳幼児のケガや病気など、いざという時に冷静に対応できるよう、知識と技術を保護者が身につける。								
現状・課題		乳幼児の事故は家庭内で発生することが多く、それに対する保護者や周囲の正しい対応が必要となってくるが、多くの保護者が具体的な応急手当についての知識と技術が不足している現状がある。								
事業目的 めざす姿		乳幼児向けの心肺蘇生法や緊急時の連絡先など、事前に適切な知識を学ぶことで緊急時に冷静に対応できるようにする。								
対 象		那覇市内在住、在勤、在学で3カ月～12カ月までの乳児がいる家庭(夫婦参加)								
募集人数等		定員：15組 申込：13組（うち受講決定数13組） 参加延べ組数：12組 (33人) 【申込率87%・参加率92%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	6月29日(日)	10:00	～	12:00	中央公民館ホール	33	6	15	12
内容	01	①座学で応急手当の基本を学ぶ。 ②2班に分かれ、1班は応急手当講習（乳幼児や小児の心肺蘇生法やAEDの使用法、異物除去、熱中症など）を実践で学ぶ。 ③2班は授乳やおしめ替えなど、育児からくる腰痛や肩こりなどを解消する、家庭で出来るセルフマッサージを学ぶ。②③は班を入れ替えて両方体験する。								
講 師	山城 みづほ（看護師） 浦崎 真由（看護師）									
【受講生の様子・感想】 受講生は講座を通じて実践的な救急対応を学び、知識と技術の向上が見られた。アンケートでは「119番通報の仕方が分かり、いざという時に備えられた」「気道異物除去の方法を実践できて良かった」など具体的な成果が挙げられている。これらの結果から、学びへの満足度が高まり、受講生は緊急時への対応力を着実に身につけたことがうかがえた。 ・アンケート結果（満足度）100%										
【成果】 具体的な救急対応を学び、いざという時に備える意識が高まったことが受講生の感想から感じ取れる。また、講師との打合せ時から「夫婦」ではなく「パートナー」という表現を用いることを決めたことで多様な参加者に配慮した側面も評価され、満足度向上につながった。アンケート結果からは、手順や方法だけでなく実践を通じて学ぶことで、受講生の意識が変わったことがわかる。前年度までは消防署の救急課に乳幼児応急を依頼していたが、今回は実際に子育てしている看護師に講師を依頼した。これにより、具体的な119への電話のかけ方、一人で部屋にいる際の対処の方法などを見てもらい、考えてもらうことで受講者の行動や意識が変わったことが感じ取れた。										





5 家庭教育事業

〔2〕乳幼児学級

講座名 タイトル		乳幼児の命を守る応急手当								
事業概要		乳幼児のケガや病気など、保護者がいざという時に冷静に対応できるよう、知識と技術を保護者が身につける。								
現状・課題		乳幼児の事故は家庭内で発生することが多く、それに対する保護者や周囲の正しい対応が必要となってくるが、多くの保護者が具体的な応急手当についての知識と技術が不足している現状がある。								
事業目的 めざす姿		乳幼児向けの心肺蘇生法や緊急時の連絡先など、事前に適切な知識を学ぶことで緊急時に冷静に対応できるようにする。								
対 象		那覇市内在住、在勤、在学で3カ月～12カ月までの乳児がいる家庭(夫婦参加)								
募集人数等		定員：10組 申込：11組（うち受講決定数11組） 参加延べ組数：8組 (23人) 【申込率110%・参加率73%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	9月28日(日)	10:00	～	12:00	中央公民館ホール	23	7	8	8
内容	01	①座学で応急手当の基本を学ぶ。 ②応急手当講習（乳幼児や小児の心肺蘇生法やAEDの使用法、異物除去、熱中症など）を実践で学ぶ。								
講 師	山城 みづほ（看護師）									
【受講生の様子・感想】 「実際に胸骨圧迫などを行うことができた。」や「何となく雰囲気を知っていたことが、流れ・やり方などを学ぶ機会を得られたのが良かった。」また「子どもを預けて夫婦で学べるのがとても良かった。実技も細かく教えてもらえて良かった」という意見をいただいた。 受講生は実技ベースの内容が理解しやすく、集中して高い学習効果が見られた。また、子どもの預かりによる受講環境が好評だった。 ・アンケート結果（満足度）100%										
【成果】 本講座は講師が子育て中であることから、家庭の中で想定される事例や実技を中心とした講座内容が受講生のニーズに合っており、理解度の向上につながったことで目指す成果に近づいた。また、保育サポーターがお子さんを預かることで受講生は集中して学ぶことができ、学びへの満足度が高まった。アンケート結果からも、四半期ごとの定期受講への希望が示されており、習慣化した学びの機会が行動を変えていることが伺える。これらの結果により、事業が目指す姿に対して具体的な進展があり、参加者自身の意識と行動に変化が生まれていると考えられる。										



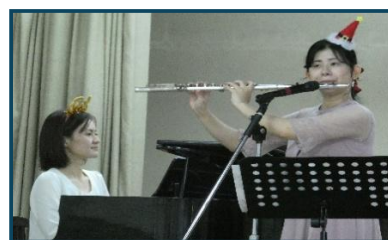


5 家庭教育事業

〔2〕乳幼児学級

講座名 タイトル		親子リトミック&クリスマスコンサート								
事業概要		乳幼児向けのクリスマスコンサートを企画。 1部は親子リトミック、音楽に合わせて体を動かすことで、リズム感や音感を養う。 2部はピアノとフルートのクリスマスコンサート。クリスマスの華やかさと音楽の楽しさをピアニストとフルート奏者を招き、乳幼児に質の高い音楽体験を提供する。								
現状・課題		現状では、乳幼児期は長い時間じっとできないため、音楽の楽しさや鑑賞の機会が足りないとされている。 また、ピアノやフルートといった楽器の演奏を生で聴く機会も少ない。 乳幼児期に、生の演奏に触れる体験は感受性や創造性を育むうえで重要であるが、実際にその機会が少ないことが課題である。								
事業目的 めざす姿		乳幼児期に生演奏を体験することは、単なる娯楽ではなく、認知能力、言語能力、情動（感性）の発達に深く関わり、非常に重要な役割を果たす。「泣いてもよい、安全で楽しい場」を保護者・子どもに提供する。								
対象		那覇市内在住・在勤で小学校入学前の子を持つ保護者とその子ども。 リトミックは首すわりから1歳までの子ども。								
募集人数等		定員：25組 申込：40組（うち受講決定数33組） 参加延べ組数：33組 （74人） 【申込率160%・参加率100%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	12月10日(水)	10:10	～	10:45	中央公民館ホール	22	0	11	11
	02	12月10日(水)	11:00	～	11:45	中央公民館ホール	52	1	21	30
内容	01	第1部 親子リトミック 10組								
	02	第2部 クリスマスコンサート 15組								
講師		松本 恵美（ピアノ講師・リトミック講師） 金城 まみ子（フルート奏者）								
【受講生の様子・感想】 参加者からは、親子リトミックの「静と動の動きが混ざり面白かった」という声や、子どもが演奏を気持ちよく聴いていたという感想が寄せられた。また、「家でなかなかできない」「生の音楽に触れる機会がない」という声が多く、本コンサートが貴重なリフレッシュや音楽体験の機会になったことが伺える。会場にはマットや畳シートをしき、授乳室やおむつ替え室を準備した。乳幼児連れでも安心して参加できるよう配慮したことが好評だった。 ・アンケート結果（満足度）100%										
【成果】 今回の「親子リトミック&クリスマスコンサート」は、「乳幼児が泣いても楽しめる安全な場」を提供し、「音楽体験を通じた認知能力・感性の育成」という事業目的の達成に大きく貢献できたと考える。特にリトミックは首すわりから1歳の子を対象とし、ニーズを的確にとらえることができた。申込率160%という高い応募状況から、広報も適切に対象者に届いたことが伺える。参加者の「0歳児とコンサートに行けると思わなかった」という声や、職員手作りのマラカス配布が好評だったことから、音楽を楽しむ機会やリフレッシュ、貴重な生演奏体験の提供に繋がったと感じる。音楽への興味関心の高まりや、家庭における音楽への働きかけなど、意識の芽生えが感じ取れた。										





6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

講座名 タイトル		ガープ川に鯉のぼりを泳がそう								
事業概要		地域連携事業として、近隣のこども園・保育園の園児が作成した鯉のぼりを、与儀公園内のガープ川に掲げる。								
現状・課題		与儀公園の現状として、地域住民同士の交流機会が少なく、交流しやすい環境づくりが必要となる。地域住民の関心を引くきっかけづくりが必要と思われる。								
事業目的 めざす姿		近隣のこども園や保育園の園児が作成した鯉のぼりを掲揚することで、与儀公園を訪れるきっかけにしてもらい、世代を問わず地域住民同士で交流できる憩いの場を目指す。								
対象		さくら保育園・みやぎ原保育園・わかば認定こども園・神原こども園・樋川みらいこども園・子育て支援センター「ていーら」								
募集人数等		定員なし 参加延べ人数：112人								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	4月21日(月)	13:00	～	13:30	与儀公園内ガープ川	25	-	-	25
	02	4月24日(木)	10:00	～	10:30	与儀公園内ガープ川	28	-	-	28
	03	4月25日(金)	10:00	～	10:30	与儀公園内ガープ川	31	-	-	31
	04	4月25日(金)	10:30	～	11:00	与儀公園内ガープ川	21	-	-	21
	05	4月25日(金)	11:00	～	11:30	与儀公園内ガープ川	7	-	-	7
内容	01	①園にて作成いただいた鯉のぼりをガープ川へ掲揚 ②子どもたちによる『こいのぼり』斉唱 ③記念撮影 ※子育て支援センター「ていーら」は掲揚式に不参加でしたが、作成にご協力いただき事前に受取った鯉のぼりを掲揚しました。 【掲揚式参加：わかば認定こども園】								
	02	【掲揚式参加：みやぎ原保育園】								
	03	【掲揚式参加：神原こども園】								
	04	【掲揚式参加：さくら保育園】								
	05	【掲揚式参加：樋川みらいこども園】								
	講師	與座 正夫								
【受講生の様子・感想】										
・鯉のぼりがガープ川に掲揚されると、自分で作成した鯉のぼりを探す様子や、講師からプレゼントされたプラトンボを使って遊ぶ様子が見られた。										
【成果】										
・近隣のこども園や保育園にご協力いただき、ガープ川に鯉のぼりを掲揚する事業は今年で5年目を迎えることができた。近隣のこども園や保育園にご協力いただいたことで、園児が登園や降園の際、保護者と一緒に自分が作成した鯉のぼりを探したり、写真撮影を楽しむ様子が見られ、与儀公園を訪れるきっかけづくりにつながることができた。										
・鯉のぼりをガープ川の5か所に1か月間掲揚したことで、幅広い年代の地域住民が足を止めて眺める姿が見られ、一時でも地域の憩いの場になれたのではと考える。										





6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

講座名 タイトル		平和を紡ぎつづけるための一歩を地域と共に ～沖縄「平和の礎」戦没者の名前を読み上げる集いin中央公民館～								
事業概要		糸満市摩文仁にある沖縄県営平和記念公園内には、世界の恒久平和を願い、国籍や軍人、民間人の区別なく、沖縄戦などで亡くなられたすべての人々の氏名を刻んだ記念碑「平和の礎」がある。太平洋戦争・沖縄戦終結50周年を記念して1995年6月23日に建設された。沖縄戦をはじめ戦争で犠牲になった24万人あまりの方々の名前が、国籍や身分を問わず、出身地、家族ごとに刻まれている。中央公民館では、沖縄戦で命を落とされた真和志地域の方々の名前をリレー方式で読み上げていく。								
現状・課題		世界の紛争は59にも及び（2024年現在）、ウクライナ侵攻やガザ地区問題の悲惨な状況が各マスメディアで伝えられる。それでも日常は続く。戦争と隣り合わせの人々の苦難に寄り添い、平和を強く希求することが重要だ。平和の尊さ、沖縄戦を含む戦争の悲惨さを次世代へ伝えていくことが現在の課題である。								
事業目的 めざす姿		6月23日は沖縄慰霊の日。今年は沖縄戦終結80年、平和の礎建立30年となる。中央公民館で礎に刻まれた名前を読み上げ、戦争で失われた尊い命に思いを馳せる時間を共有する。沖縄戦を生き抜いた人々の想いを受け継ぎ、次世代へ平和の願いを伝えていく。								
対 象		中央公民館の近隣住民、テーマに関心のある方								
募集人数等		定員：30人 申込：18人（うち受講決定数18人） 参加延べ人数：16人 【申込率60%・参加率89%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	6月8日(日)	13:00	～	14:00	中央公民館ホール	16	1	4	11
内容	01	開始30分前に集合する。 自己紹介（フルネーム）をする。 各自割り当てられたリストにあるお名前を読み始める。 基本、戦没者のお名前、年齢を読みあげる。 全体の終了後、ホールに滞在している参加者一同で平和への誓いや感想をシェアする。								
【受講生の様子・感想】										
・今回のこの集いに参加し、名前と年齢を読み上げることで戦争についてもっと深く考えさせられ、感じるものがとてもあった。 ・今までこういうのに参加した事がなかったけど、平和の大切さについて実感できた。 ・異年齢でテーマを共有できたことは良い。 ・アンケート結果（満足度）100%										
【成果】										
「平和の礎」のお名前読み上げを通じて参加者に戦争の悲惨さと平和の尊さを深く認識させ、次世代へ平和を伝える目的を達成した。多様な世代（特に若年層）が参加できた点や休日開催を考慮すると、幅広い層へ効果的に訴求できたと推察される。アンケートからは「深く考えさせられた」「貴重な体験だった」といった内面的な変化や、将来的に平和を語り継ぐことへの意欲が伺え、参加者の平和意識向上と行動変容の萌芽が見られた。										





6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

講座名 タイトル		「未来を守る防災力！」IN神原小学校・与儀小学校・開南小学校								
事業概要		中央公民館地域の小学校を対象に、那覇市防災危機管理課から講師を招き、那覇市が取り組んでいる地域防災や、小学校にある防災備蓄庫について学ぶ。 今回は、神原小学校6年生、与儀小学校3年生・4年生、開南小学校4年生に講話。								
現状・課題		年に数回避難訓練は行っているが、実際に備蓄庫がどこにあるのか、那覇市が取り組んでいる地域防災について学ぶ機会が少ない。								
事業目的 めざす姿		防災を、年数回だけのイベント体験で終わらせず、児童が自分事として考え、命を守る行動ができるようにする。								
対 象		神原小学校6年生、与儀小学校3年生・4年生、開南小学校4年生								
募集人数等		定員：193人 参加延べ人数：193人								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	無回答
	01	7月3日(木)	13:35	～	15:15	神原小6-1・6-2	51	25	26	0
	02	11月13日(木)	9:35	～	12:15	与儀小3-1・4-1・4-2	82	31	46	5
	03	11月26日(木)	10:20	～	12:00	開南小4-1・4-2	60	21	35	4
内容	01	神原小学校6年1組・6年2組、講師による防災講話と防災備蓄庫の見学								
	02	与儀小学校3年1組・4年1組・4年2組、講師による防災講話								
	03	開南小学校4年1組・4年2組、講師による防災講話								
講 師		源河 北斗（防災危機管理課 副参事）								
【受講生の様子・感想】 「今まであまり防災について集合場所とか準備とか考えたことがなかったから、いつおきてもいいようにかぞくでしっかり話し合って自分の身は自分でまもれるようにしたいと思いました。」や「防災授業を受けて、ちゃんとマイタイムラインなどを作ろうと思いました。非常用の食べ物、水、トイレなど買ってリュックに入れておいたほうがいいなと思いました」などの感想や、授業中もたくさんの質問が出ており、自分事として考えているのが伝わった。 ・アンケート結果(満足度) 94.8%										
【成果】 地域防災がテーマだったことで、各学校長との調整も円滑に進み、快く協力いただけたことで問題なく進行することができ、学校と中央公民館との協力関係が作れた。 防災授業中も児童から、たくさんの質問や意見が寄せられ関心や理解が深まった様子が伺えた。また、アンケートにも多くの感想が寄せられ「家族とマイタイムラインを作り避難場所を決めておきたい」や「ここも？・ここは本当に安全か？とかを意識して災害時に一人でも多く助けたいと思った」など、授業の内容が家庭での対話につながるなど、目指す姿に近づく成果を得られたと感じている。										



6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

講座名 タイトル		こどもの居場所「お習字教室」								
事業概要		市内の小中学生向け無料書道講座。日本の伝統文化である書道に親しみ、墨と筆で表現力・集中力・達成感を育む。沖縄尚学高校・付属中学書道部生徒が丁寧に指導。道具不要で気軽に参加でき、夏休みの課題作成支援と書道部のボランティア生徒が習字の指導を通じて成長し、子どもたちとの交流の中で地域貢献を実践する。								
現状・課題		経済的理由や保護者の多忙等により、習い事や家庭での学習支援が困難な子どもたちがいる。特にお習字では、専門指導や夏休みの課題作成サポートが不足し、体験格差が生じているのが現状である。本事業は、地域の資源（書道部生徒、公民館）を活用し、経済的背景に関わらず「無料～安価な体験の場」と「安全な居場所」を提供することで、この格差解消を目指す。								
事業目的 めざす姿		書道を通して子どもたちが創造的な自己表現の喜びを見出し、自己肯定感を高める。集中して学ぶ楽しさを体験し、それが学校生活や他の学習へも良い影響をもたらす。 夏休みの課題で自信作を提出し、達成感に満ちた笑顔が溢れる。 書道部生徒が子どもたちに寄り添い、共に成長しながら地域貢献する。 子どもたちが気軽に日本の伝統文化に触れ、世代を超えた交流が生まれる温かい「居場所」として書道教室を定着させる。								
対象		那覇市内の小学校・中学校の児童生徒								
募集人数等		定員：40人 申込：19人（うち受講決定数19人） 参加延べ人数：19人 【申込率48%・参加率47%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	
	01	7月23日(水)	14:30	～	16:30	中央公民館ホール	6	2	4	
	02	1月5日(月)	12:30	～	14:30	中央公民館ホール	13	2	11	
内容	01 02	伝統文化に触れ、集中力と表現力を養い、作品を仕上げる。								
講師		沖縄尚学高等学校・付属中学校の書道部の生徒・顧問（豊平 美奈子）								

【受講生の様子・感想】

- ・最初は「好きかどうかうまく書けないから苦手」だったけど、今は「すき！」です。
- ・どんどん上手になるところが楽しかった。
- ・漢字を習字で書くところが楽しかった。
- ・アンケート結果（満足度）100%

【成果】

本教室は、単なる技術習得に留まらない深い学びを提供した。参加者の感想から、書道文化の奥深さや意味に触れる機会となり、「楽しみながらの上達と達成感の獲得」を体験できたことが伺える。特に「自分がいちばんきれいな字かな？」という声は、子どもたちが自信を持って作品を完成させた証である。

成功の鍵は、ボランティア講師である書道部生徒の丁寧に心温まる指導にあった。指導を通じて生徒自身も「教える難しさやコミュニケーションのとり方を学べた」との感想が多く、相乗効果が確認された。

リポート要望も寄せられ、本講座が子どもたちにとって魅力的で、地域に定着していく可能性が高いことを示唆している。ボランティア生徒が児童に寄り添い、共に書き上げる微笑ましい姿は、教室が単なる学びの場に留まらない、温かい交流の場であることを示している。









6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

講座名 タイトル		こどもの居場所「ニュースポーツ体験」								
事業概要		夏休み期間中に市内の小・中・高校生を対象に、公民館で開催するニュースポーツ体験会を行う。チャンバラ、ストライクアウト、インディアカ等、多種目のニュースポーツを通じて、いつでも、どこでも、誰でも気軽に運動を楽しめる機会を提供する。参加者が運動の楽しさを知り、好きなスポーツを見つけると共に、初めて会う仲間と交流を深めることを目指す。								
現状・課題		公民館は子どもの居場所の一つであり、ニュースポーツ体験は人気のプログラム。ハードルが低く初心者も楽しめると好評である。しかし、初めての参加者にはルール理解に時間や個別の支援が必要な場合がある。種目選択に悩む子もあり、導入の工夫が求められる。交流が活発でない場合があり、促進する仕掛けが必要。また、安全対策や道具管理のため、スタッフの準備と体制強化が重要である。								
事業目的 めざす姿		夏休みの安全で楽しい「居場所」を創出するために、ニュースポーツ体験を通じ子どもたちに運動の楽しさや達成感を提供し、自己発見や成長のきっかけを支援する。初対面の子ども同士が交流を深め、幅広い年齢層が共に学び協力し、遊びと学びの場として機能すること、ニュースポーツ体験が今後のスポーツ活動や健康へ繋がるきっかけとなることを目指す。								
対 象		那覇市内の小学生・中学生・高校性								
募集人数等		定員：40人 参加延べ人数：47人								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	7月29日(火)	13:00	～	16:00	中央公民館ホール	10	4	5	1
	02	8月5日(火)	13:00	～	16:00	中央公民館ホール	37	1	3	33
内容	01	チャンバラ、ラダーゲッター、ストライクアウト、フライングディスク、インディアカ、カーリング、輪投げ、ソフトバレーゴム鉄砲づくり、コマづくり								
	02									
講 師		與座 正夫								
【受講生の様子・感想】										
・知恵の輪が難しくて苦戦したけど、楽しかった。 ・ゴム鉄砲が楽しかった。また来たい、次来るときは家族できたい。 ・小学生との交流も楽しかった。室内でいろいろな遊びがあり楽しかった。 ・アンケート結果（満足度）100%										
【成果】										
参加者からのアンケートをみると、様々な遊びを通して楽しんだ様子が伺える。特に、難しい知恵の輪に苦戦しながらも楽しんだという感想や、自分で作ってみようという意欲が見られたことは、単なる遊びに留まらない学びの機会を提供できた結果だといえる。小学生と中学生が共に活動し、初対面の子ども同士の交流も深めることができた。参加者からは「小学生も可愛かった」といった声もあり、幅広い年齢層が協力し合うことで、安全で楽しい「居場所」を創出するという目的も達成できた。また来たいという声も多く、継続していきたい。										







6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

講座名 タイトル		こどもの居場所「色と形であそぼう！」							
事業概要		子どもたちが絵画で創造力・自己表現力を育み、芸術的感性を養うことを目的とする。美術教師で公認心理師の講師が（カラー理論、デカルコマニー、コラージュ等）多様な技法で、楽しく指導。また、子どもの心理状態説明と関わり方のアドバイスを保護者へ提供し、厚い信頼を得ている。絵に抵抗や課題を持つ子にも寄り添い、表現する喜びと達成感を通じて自信と自己肯定感を育む、心豊かな体験を提供する。							
現状・課題		現状として、絵を描くことに苦手意識を持つ子どもは、評価への不安や「上手に描けない」という思いから表現をためらい、創造性を発揮しにくい。課題としては、評価を恐れて表現を制限し、自己肯定感が低下すること。自由な発想や試行錯誤の機会が失われ、創造性や問題解決能力の育成が阻害される可能性がある。							
事業目的 めざす姿		絵画制作を通し、創造性と自己表現の喜びを育む。絵に抵抗感を持つ子にも自信を与え、前向きに取り組める体験を提供。心理に寄り添い個々の成長を促す。保護者も子の成長を理解し、親子関係向上に寄与。絵好きも苦手な子も楽しめる安心な場で、自己肯定感を高め、家族で心豊かに育つ場を目指す。							
対 象		那覇市在住の小学2年～6年生							
募集人数等		定員：20人 申込：19人（うち受講決定数19人） 参加延べ人数：16人 【申込率95%・参加率84%】							
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性
	01	8月3日(日)	13:00	～	16:00	中央公民館ホール	16	2	14
内容	01	・色の三原色の説明。 ・デカルコマニー、スパッタリング、ドリッピング、スタンピング、コラージュなどの絵画技法を学ぶ。 ・自由に描いてみよう。 ・全員で作品を掲げ集合写真を撮る。							
講 師	江谷 紋子（自分らしく生きるサポート応援団・紋クリエイティブオフィス）								
【受講生の様子・感想】									
・色々技が知れて良かった。絵にも様々な表現方法があることを理解できました。 ・頭を使うから想像力がアップしました。 ・色を混ぜて、グラデーションするところが楽しかった。 ・保護者からは「自由に描く楽しさ」「創造・発想の刺激」「絵の苦手な親も勉強になった」「家庭でのアートのきっかけ」との声があった。 ・アンケート結果（満足度）100%									
【成果】									
子どもたちは、様々な技法（ドリッピング、スパッタリング、コラージュ等）を体験し、「楽しかった」「想像力がアップした」と述べ、創造性を発揮し自己表現の喜びを経験している。絵に抵抗のある子も「好き」に変わるなど、自信を育む場となった。心の成長や親子関係向上にも寄与していると言える。「安心でワクワクする場」を実現し、目指す姿が概ね達成されていると感じる。									







6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

講座名 タイトル		にぎわいカフェ「地域の防災を学ぼう」								
事業概要		地域包括支援センター城岳と連携し、高齢者を対象に、災害時に落ち着いて行動できるよう防災について学ぶ。								
現状・課題		地震や台風、大雨など自然災害が各地で多発しているが、高齢者が防災を学ぶ機会が少ない。一般的な防災ではなく、高齢者自身が住む地域の現状を踏まえた防災を学ぶ場が急務と考える。								
事業目的 めざす姿		高齢者などが住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるよう、サポートしている地域包括支援センターと連携し、地域住民を対象に防災講座を開催することで、もしもの時に落ち着いて行動できるようにする。								
対 象		地域包括支援センター城岳の近所の人及び那覇市内、在住、在勤、在学の人								
募集人数等		定員：無し 参加延べ人数：9人								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	8月20日(水)	10:00	～	12:00	地域包括支援センター城岳	9	3	6	0
内容	01	1.高齢者の避難について 2.日頃から備えておくべき防災グッズ等 3.地域を考えた避難経路								
講 師		稲垣 暁（災害プラットフォームおきなわ（DMP0）理事）								

【受講生の様子・感想】

「地図や地形よる視点からの話が良かった」や「災害の危険度など地域ごとに表され、理解できました」など、話を聞いていろいろ気づかされたと言う声があった。

「防災に必要な物の話が聞きたかった」など時間が足りなかったようで又このような話が聞きたいという要望もいただいた。

・アンケート結果（満足度）100%



【成果】

この企画は、地域包括支援センター城岳と連携し、高齢者を対象に防災知識を深め、災害時に落ち着いて行動できるよう支援することを目的として開催した。

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、地域の実情を踏まえた防災学習の場を提供するという点で、目的達成の手段として適切だと考えられる。

広報は主に地域包括支援センター城岳の「にぎわいカフェ」に参加されている、地域の高齢者の人々に行った。

事業の結果、目指す姿「高齢者の防災行動力向上」については、災害時に必要なものが知りたいなど防災について自主的に考え始めていることが伝わった。



6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

講座名 タイトル	さくらルーム～参加者同士が、学びあい・教えあい・分かち合う場をつくっていく居場所づくり～「スマホ講座」									
事業概要	地域に住む市民の「居場所」のひとつに公民館がなれるよう、リビングみたいな雰囲気 で、気軽に参加でき、楽しめる居場所づくり。参加者同士のゆんたく（おしゃべり）に花 が咲き、お互いの趣味や特技を紹介しあう場面をつくり、参加者が特技を教えるなど活躍 の場を設ける。また、チャレンジしたいことを共有し、実現するためのプロセスをみんな で取り組むことで連帯感を生み、仲間意識の醸成を図る。									
現状・課題	高齢者の居場所は、公民館のサークル活動や自治公民館などで行われている社協の「ふれ あいデイサービス」、地域包括支援センターが定期的に開催している学習会などがある。 継続的な参加を促す好奇心が高まるような内容と、参加者同士のコミュニケーションが円 滑に行われる場づくりが求められる。さくらルームに参加する中で自発的に行動できるよ うに促しながら、取り組みを継続していくことが今後の課題である。									
事業目的 めざす姿	高齢者から赤ちゃんまでが地域で繋がれる場づくり。趣味や特技を生かす場の提供。参加 者一人ひとりが自発的に活動（講座の企画運営等）が行える。他者とのより良い信頼関係 の構築を促進し、より豊かな人生を送るための学びと新たな仲間づくり。地域資源の発 掘・利活用。お互いが大切にする・される居心地の良い場所を目指す。									
対 象	地域住民									
募集人数等	定員：10人 参加延べ人数：75人									
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	9月30日(火)	14:00	～	16:00	中央公民館ホール	7	1	6	—
	02	11月4日(火)	14:00	～	16:00	中央公民館ホール	7	1	6	—
	03	12月2日(火)	14:00	～	16:00	中央公民館ホール	7	2	5	—
	04	12月16日(火)	14:00	～	16:00	中央公民館ホール	9	3	6	—
	05	1月20日(火)	14:00	～	16:00	中央公民館ホール	12	3	9	—
	06	2月3日(火)	14:00	～	16:00	中央公民館ホール	10	4	6	—
	07	2月17日(火)	14:00	～	16:00	中央公民館ホール	9	4	5	—
	08	3月3日(火)	14:00	～	16:00	中央公民館ホール	7	3	4	—
	09	3月17日(火)	14:00	～	16:00	中央公民館ホール	7	3	4	—
内容	01～09	自己紹介・個人のスマホでわからないところを教えてもらう。								
講 師	比嘉律子・比嘉・川満・下門（那覇市シルバー人材センター）									
【受講生の様子・感想】										
・自分の聞きたいことがきけて良かったです。 ・少しずつ理解できるようになりました。新しいことがわかった。 ・毎回ですが親切丁寧に教えていただきありがとうございます。 ・アンケート結果（満足度）88.5%										
【成果】										
スマホ講座の受講生は、ほとんどが継続受講をしている。3人ほどのグルー プに分かれて、わきあいあいとした雰囲気学んでいいる。 学んだことを忘れまいと熱心なため、休憩なしで学んでいいる。 受講生は、公民館の近くから来ているので、お互いに顔見知りになってき て、楽しそうにおしゃべりに花を咲かせ、交流を深めている。 また、様々な話の内容にも興味を示して、積極的に参加する姿が見られ る。										





6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

講座名 タイトル	さくらルーム～参加者同士が、学びあい・教えあい・分かち合う場をつくっていく居場所づくり～「ニュースポーツ体験」・「オンラインコンサート&カラオケ大会」・「新春の宴」・「オンラインコンサート&いきいき健康サロン」・「みんなでグラウンドゴルフ！」
事業概要	地域に住む市民の「居場所」のひとつに公民館がなれるよう、リビングみたいな雰囲気、気軽に参加でき、楽しめる居場所づくり。参加者同士のゆんたく（おしゃべり）に花が咲き、お互いの趣味や特技を紹介しあう場面をつくり、参加者が特技を教えるなど活躍の場を設ける。また、チャレンジしたいことを共有し、実現するためのプロセスをみんなで取り組むことで連帯感を生み、仲間意識の醸成を図る。
現状・課題	高齢者の居場所は、公民館のサークル活動や自治公民館などで行われている社協の「ふれあいデイサービス」や地域包括支援センターが定期的に行っている学習会などがある。継続的な参加を促す好奇心が高まるような内容と参加者同士のコミュニケーションが円滑に行われる場づくりが求められる。さくらルームに参加する中で自発的に行動できるように促しながら、取り組みを継続していくことが今後の課題である。
事業目的 めざす姿	高齢者から赤ちゃんまでが地域で繋がれる場づくり。趣味や特技を生かす場の提供。参加者一人ひとりが自発的に活動（講座の企画運営等）が行える。他者とのより良い信頼関係の構築を促進し、より豊かな人生を送るための学びと新たな仲間づくり。地域資源の発掘・利活用。お互いが大切にする・される居心地の良い場所を目指す。
対 象	地域住民
募集人数等	定員：10人 参加延べ人数：141人
日時 場所	回 期日 開始 ～ 終了 実施(集合)場所 参加人数 男性 女性 子ども
	01 10月7日(火) 14:00 ～ 16:00 中央公民館ホール 4 1 3 ー
	02 10月28日(火) 14:00 ～ 16:00 中央公民館ホール 12 2 10 ー
	03 1月6日(火) 14:00 ～ 16:00 中央公民館ホール 61 18 43 ー
	04 1月21日(水) 14:00 ～ 16:00 中央公民館ホール 15 1 5 9
	05 3月24日(火) 14:00 ～ 16:00 与儀公園 49 5 4 40
内 容	01 自己紹介・ニュースポーツ体験
	02 オンラインコンサートを視聴し、カラオケを楽しむ
	03 新春の宴：八重山舞踊の鑑賞と与那国のまやー一の踊りをみんなで練習して踊る。
	04 オンラインコンサートを視聴し、音楽健康指導士による頭と身体の体操を体験する。
	05 与儀公園で地域住民がグラウンドゴルフを楽しみながら、交流を深める。
講 師	01：與座正夫 02：城間充（沖縄第一興商・音楽健康指導士） 03：新川千枝子・仲盛光子・次呂久公子・糸満文花・山城美帆・石川未侑・崎山律子 04：城間充（沖縄第一興商・音楽健康指導士） 05：武村朝勝・大沼実由紀・西原貴大（那覇市スポーツ推進員）
【受講生の様子・感想】 「ニュースポーツ体験」アンケート結果（満足度100%） 「オンラインコンサート&カラオケ大会」アンケート結果（満足度100%） 「新春の宴」アンケート結果（満足度95.6%） 「オンラインコンサート&いきいき健康サロン」アンケート結果（満足度78.6%） 「みんなでグラウンドゴルフ！」アンケート結果（満足度100%）	
【成果】 どの回も続けて参加される人や初めての人もいるが、全員が楽しんでいる様子が伺える。子どもたちが参加すると、シニアの参加者が元気はつらつになるので、今後も多世代参加型で交流を深める機会を多く持ちたい。	



6 その他の事業

〔2〕地域学習支援講師派遣事業

年間の派遣件数：1件

派遣先：下表のとおり

1	申請団体	ありがとう与儀公園まつり実行委員会
	事業名	ありがとう与儀公園まつり
	学習内容	与儀公園のリニューアル工事に伴い地域の人々が開催するまつり
	開催日時	令和8年2月22日（日）9：00～16：00
	開催場所	那覇市与儀公園グラウンド及びステージ
	講師名	講師：與座 正夫 クラウンきらら
	参加人数	約2,500人
	学習報告 (成果、反省等)	【ありがとう与儀公園まつり実行委員会からの報告】 まつりには与儀公園周辺の雑貨屋やお花屋さん、フリーマーケットや飲食店など25店舗が出店した。中央公民館からは講師派遣事業として「コマ作りなどの昔遊び」と「クラウンきららさんによるバルーン遊び」の2つを出店した。どちらも長蛇の列で休憩が取れないほどであった。 舞台の部では、天ノ川の子どもエイサーや青少年舞台プログラム、神原こども園のダンスや神原小学校の合唱、真和志青年会のエイサーや華風会の旗頭などの演舞で盛り上がった。ひとときわ華やいだのは「与儀公園や家族に愛を叫ぶ」のプログラムでは、早朝から与儀公園を清掃やラジオ体操を行っている「噴水会」の皆さんが与儀公園の思い出を語り、「ありがとう与儀公園」と叫んでいた。
	学習の様子	  

7 公民館まつり

講座名 タイトル		第50回那覇市中央公民館まつり								
事業概要		中央公民館で活動しているサークル団体の日頃の活動や学習成果の発表・紹介を行う。また多くの方に来館していただくため、絵本の読み聞かせ、おもちゃ作り体験コーナー、展示コーナーを設置する。								
現状・課題		地域住民や日頃利用しているサークル団体が一同に会し、顔の見える関係を築く地域交流の機会であるが、まつり運営の担い手不足（サークルの減少等によるボランティアの不足等）や、部屋数が少なく限られた内容で行っている。								
事業目的 めざす姿		中央公民館で活動しているサークル団体が、日頃の活動や学習成果を発表・紹介し合い、相互の交流をはかるとともに、多くの市民にも参加を呼びかけることで、公民館活動のより一層の振興を図る。								
対 象		中央公民館定期利用団体及び地域住民								
募集人数等		定員：無し 参加延べ人数：508人								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	2月15日(日)	10:00	～	15:30	中央公民館ホール	508	—	—	—
内 容	01	10:00～12:00 こどもわくわくたいけんひろば オープニングセレモニー：クラウンきららバルーンショー 第2回「図書館を使った調べる学習コンクール」表彰式 読み聞かせ（中央図書館ボランティア） バルーンアート、おもちゃ作り（同時進行）								
		12:00～12:50 舞台発表準備 12:50～15:30 舞台発表 定期利用サークル11団体								
講 師		10:00～15:30 展示発表 定期利用サークル2団体、環境パネル展示								
		出演：クラウンきらら（オープニングセレモニー、バルーンアート） 與座 正夫（おもちゃ作り） おはなしゆんたく、沖縄おはなしの会伝々虫（読み聞かせボランティア） 中央公民館利用サークル（舞台発表11団体、展示発表2団体）								

【受講生の様子・感想】

・来館者数（延べ人数）：508人

・「こどもたいけんひろば」では、子どもたちが積極的にバルーンアートやおもちゃ作りを行っている様子が見られた。各サークルによる舞台・展示発表では、日頃の活動の成果を十二分に発揮していた。

【成果】

まつりにはこどもを含む多くの市民が来館し、バルーンアートやおもちゃ作りを体験したり、サークルによる舞台発表を鑑賞し、楽しんでいる様子だった。公民館周辺の与儀公園の桜も満開を迎え、まつりに花を添えた。進行は特に問題なく進んだが、ボランティアスタッフの確保や舞台運営、体験ブースの設置等課題があり、これらの反省点を踏まえ、次年度はより良いまつり作りを目指す。





